

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
プライドが高い人、低い人 「自己評価」は毒にも薬にもなる

一般的に「プライドが高い人」とは、その人が持っているあらゆる意味での「実力」と比べて、それ相応以上に自分を評価したときに、生まれるものではないかと私は考えています。

虚栄のためのプライドなど、有能なビジネスマンは持ちません。日本語に訳せば「自尊心」という意味であり、何の役にも立たないからです。

それは自分を尊ぶ心であり、言葉が表すそのもののことです。どのような場合においても、プライドとは他人に見せるものではありません。あるいは、見せてはいけないものといってもいいでしょう。

もっとも、プライドの高さを外にアピールするのではなく、自分に向けて発揮できるのであれば、意味があります。

たとえば、自分自身のレベルを自覚し、そのうえで「プライドにかけても、仕事の結果をさらに上のレベルまで持っていく」というアプローチができるなら、それは自分を向上させる原動力になります。

また、プライドの高い人がいれば、低い人もいます。プライドが低い人というのは、その人に対する社会の評価に対して、自分の自身に対する評価が低いということで、自分を尊ぶのではなく、謙虚な心を持っている人です。

しかし、このプライドの低さが内に向いてしまうと問題となります。仕事の結果を出せなくてもたいして気にかけなかったり、反省しなかったりという態度を見せるのがこのタイプです。

思わずこちらが「悔しくないのか」「お前にはプライドがないのか」とハツパをかけたくなるような人であり、向上心に欠けた無能な社員になりがちです。

要するに、「プライド」とは、それが向けられる対象によって意味合いが変わってきます。高いプライドを外に向ければ「自尊心」となりますが、自分自身に向ければ「向上心」を生み出します。

逆に、低いプライドは、周りに対する謙虚な姿勢となって現れるのなら一流の振る舞いとなりますが、自分自身に対するあきらめや向上心のなさにつながってしまうと、成長を阻害します。

高いプライドと、低いプライド—どちらも生かし方によっては、自分の「武器」になり得るのです。

カッコ内を埋めてください

高いプライドを外に向ければ（ ）となりますが、

自分自身に向ければ（ ）を生み出します。

低いプライドは、周りに対する（ ）となって現れるのなら一流の振る舞いと

なりますが、自分自身に対する（ ）や（ ）につながってしまうと、

成長を阻害します。